

輸入増加に潜む問題

経済調査部 大塚 崇広

輸入増加が続く機械類

輸入量の増加といえば、原発の停止に伴う燃料輸入の増加が注目されますが、輸送用機器や一般機械、電気機器といった機械類も増加が続いています。品目別の実質輸入をみると、機械類の増加が際立っており、特にアジア諸国からの輸入増加が目立ちます(資料1、2)。輸入増加の一因は新興国の機械類生産におけるキャッチアップです。また、景気(GDP)に加え、日本企業の海外進出に伴う逆輸入の増加も機械類の輸入増加の一因です(資料3)。

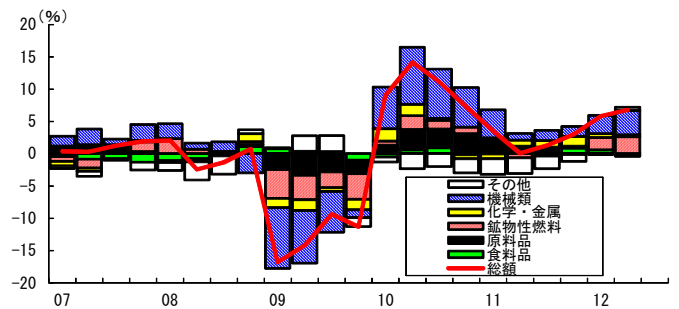
輸入の増加は良いこと？悪いこと？

こうした新興国からの機械類の輸入増加は日本経済にとってどのような影響を与え得るのでしょうか。しばしば懸念されるのは、日本企業の競争力の低下を背景とした輸入増や生産拠点の海外移転が国内生産の下押し圧力となり、国内での雇用機会が失われることです。一方でプラスの面もあります。割安な新興国の製品を購入できることは輸入する企業や最終消費者にとっては有益なことです(資料4)。

結局、輸入量や海外進出の増減が問題なのではなく、輸入により節約された労働や資本で新たなものを生み出せるかが問題です。そこが解決できれば、割安な輸入品を手にしつつ雇用機会の減少も回避できます。

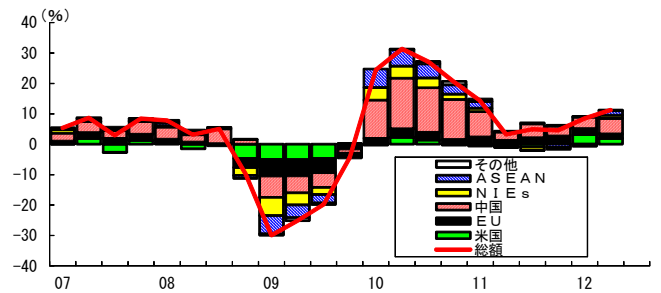
もちろん海外企業との競争条件を同じにするために、過度な円高や電力不安、他国と比べ高い法人税率といった日本企業を取り巻く障害を取り除くことは必要でしょう。それでもなお、長期的には新興国の高成長を背景にこうした輸入増加圧力は避けられず、結局は付加価値の高い財の生産に特化することや新たに付加価値の高い財を生み出す等の努力で日本企業の競争力を高めていくことが重要となります。

資料1 実質輸入の推移(前年比)



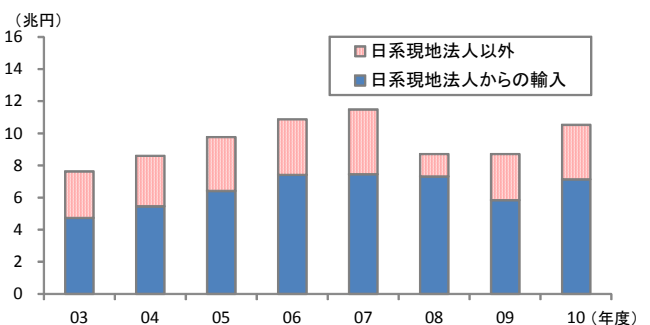
(出所) 財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」、実質化は当社

資料2 機械類の地域別実質輸入の推移(前年比)



(出所) 財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」、実質化は当社

資料3 機械類輸入の内訳(アジア)



(出所) 財務省「貿易統計」、経済産業省「海外事業活動基本調査」より筆者作成

資料4 輸入増加で想定されるメリット・デメリット

メリット	デメリット
①割安な製品輸入による企業のコスト競争力の向上。 ②家計の実質所得向上。 ③比較優位にある産業に生産要素(労働力、資本)を集中させる誘引になる。	①日本企業の国内での競争力低下や日本企業の海外進出に伴い国内生産が下押しされる。 ②国内生産の下押しで、設備投資も縮小。 ③生産と設備投資の縮小で、国内での雇用機会も喪失。

(出所) 筆者作成